

# 平成 29 年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成 30 年 5 月

会津若松市（福島県）

## ○計画期間：平成 27 年 7 月～平成 32 年 3 月（4 年 9 月）

### I. 中心市街地全体に係る評価

#### 1. 平成 29 年度終了時点（平成 30 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成 27 年 7 月以降、認定基本計画に基づき、「城下町回廊の賑わい」～まちなかの生活の場・交流の場づくりによる、賑わいのあふれる、歩いて暮らせるまちづくり～の基本理念のもと、官民が連携し各種事業を実施している。

認定基本計画に位置付けた事業の進捗状況は、全 58 事業（再掲を除く。）のうち 7 事業が完了、50 事業が実施中、1 事業が未着手となっており、事業の進捗率は 98.3%となっている。

平成 29 年度は計画 3 年目であり、本計画に基づく中心市街地活性化の取組による大きな効果として、商機能の向上の指標である中心市街地内での「新規出店者数」に大きな伸びが発現している。今後も、空き店舗対策事業や創業支援事業、歴史的建造物を活かしたまちなか賑わい拠点づくり事業等により、中心市街地への新規出店が見込まれている。

一方で、交流人口の拡大の指標である「歩行者通行量」とまちなかにおける市民による活動量の指標である「活動拠点施設利用者数」については、厳しい状況となっている。その要因として、目標に大きく寄与する見込みの商業施設改修整備事業が未着手となっていることや各種工事等による影響、既存公共施設の利用者が推計値より大きく下回っていることなどがある。

中心市街地における社会人口の増、商店街におけるハード整備事業の進展、観光客入込み数の微増など、各種指標への効果が期待される面もある一方、今後一層、買物環境の変化や人口減少等が進む中で、中心市街地の訴求力を高める更なる効果的な取組が求められてくる。

なお、平成 30 年 3 月末には、中心商店街である神明通り商店街に新たなアーケードが完成し、4 月以降「健康」をテーマとした近隣商店街とのソフト事業の面的展開の実施が決まり、また、鶴ヶ城付近に建設が進む ICT オフィス環境整備事業などの進展により、新たな人の流れと交流人口拡大による賑わいの創出が見込まれていることから、他の計画掲載の事業とも連携を図り、相乗効果が発現できるよう、引き続き支援等を実施していく必要がある。

#### 【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(中心市街地区域)	平成 26 年度 (計画期間開始前年度)	平成 29 年度 (フォローアップ年度)
人口	10,717 人	10,182 人
人口増減数	▲194 人	▲110 人
社会増減数	▲83 人	4 人
転入者数	412 人	388 人

※人口は、該当年度内の 1 月 1 日（基準日）現在。人口増減数・社会増減数・転入者数は、当該年度内の基準日までの 1 年間の変動数を掲載。

## 2. 平成 29 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 29 年度の取組において、「新規出店者数」については大きな伸びが発現しており、順調に進捗していることが示された。

一方で「歩行者通行量」及び「活動拠点施設利用者数」は、目標達成に寄与する効果が発現してはいないが、その要因も示されており、目標達成に向けた対策を講じることや、今後の各種事業の進展により、新たな人の流れと交流人口拡大による賑わいの創出が見込まれると評価したことについては、当協議会としても同意見である。整備実施により大きな効果が期待される大型商業施設の改修については、実施主体である民間事業者との意見調整を行うなど、支援の継続を要望する。

また、まちなか公共交通の在り方についても、適宜必要な調査の実施と分析報告を求める。

今後も農林水産資源や歴史・文化・風土といった、特徴ある地域資源を活かした魅力あるまちづくりに向け、関係機関との連携を一層深め、さらには、市民協働の視点を取り入れた一体的な事業推進を図ることが必要であると考えます。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
1. 商機能の向上	新規出店者数 (過去5年平均)	8.8 件 (H26)	13.6 件 (H31)	13.6 件 (H29)	①	①
2. 交流人口の拡大	歩行者通行量 (平日と休日の加重平均)	26,151 人 /日 (H26)	27,675 人 /日 (H31)	23,715 人/日 (H29)	①	②
3. まちなかにおける市民による活動量の増加	活動拠点施設利用者数	512,179 人/年 (H24)	530,233 人/年 (H31)	475,050 人/年 (H29)	①	②

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### (1) 商機能の向上について

新規出店数が前年を大きく上回っており、中心市街地活性化の取組の成果としても考えられる。

今後も、引き続き、継続事業である「空き店舗対策事業」や「創業支援事業」、歴史的建造物を改修してテナントやコミュニティの場として活用する「歴史的建造物を活かしたまちなか賑わい拠点づくり事業」による新規出店が期待され、目標達成は可能と見込まれる。

#### (2) 交流人口の拡大について

まちを歩くことを通した健康づくり事業、高齢者向け住宅建設事業、コミュニティ施設整備事業等の実施による「人の流れ」を作り出す取組や、店舗ファサードの改修、板塀、のれんによる各通りをつなげる景観づくり事業、ライトアップ事業、各種イベント、まちゼミ等を行い、「まちなかと個店の魅力向上」を図る様々な取組も継続しているが、今後、目標値に大きく寄与する「商業施設改修整備事業」が進展し、歩行者通行量の増加が図られたとしても目標達成には厳しい状況にあり、対策が必要となる。

#### (3) まちなかにおける市民による活動量の増加について

商店街等が設置する市民活動に寄与する活動拠点は増え、その利用者数も徐々に伸びてきている一方で、既存公共施設利用者が推計値と大きな差があり、今後、新たなコミュニティ施設等の整備が進んだとしても、目標達成には厳しい状況にあり、対策が必要となる。

### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

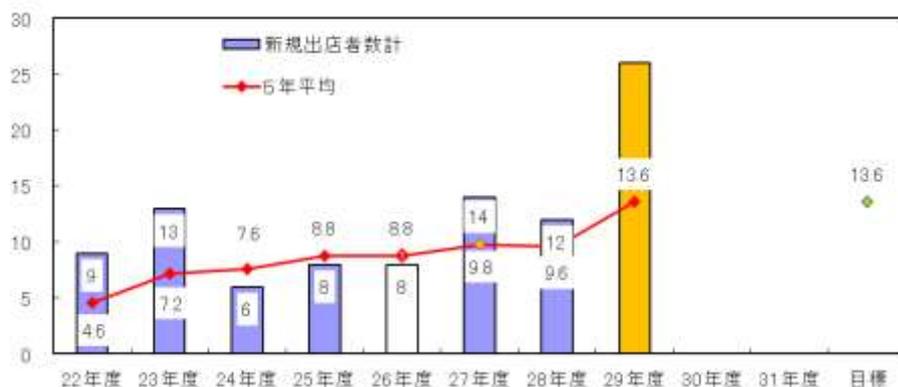
「交流人口の拡大（歩行者通行量）」については、まちなかの魅力向上に向けた多くの取組は実施しているものの、目標値に大きく寄与する見込みの「商業施設改修整備事業（+2,660人/日）」の実施の遅れや事業の再検討が必要になっていること、また、歩行者通行量の減少が想定より大きく、②と評価した。

「まちなかにおける市民による活動量（活動拠点施設利用者数）」については、既存公共施設の利用者推計値との差（▲約50,000人/年）が大きく、新たなコミュニティ施設等の整備が進展しても目標達成には厳しい状況にあるため、②と評価した。

### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「新規出店者数」※目標設定の考え方基本計画 P63～P66 参照

#### ●調査結果の推移



年	(件)
H26	8.8 (基準年値)
H27	9.8
H28	9.6
H29	13.6
H30	
H31	13.6 (目標値)

※調査方法：毎年度3月末日時点での数値を関係機関等に照会

※調査月：平成30年4月

※調査主体：会津若松市

※調査対象：中心市街地内への新規出店者数

#### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

##### ① 会津版家守事業（まちづくり会社、民間事業者等）

事業完了時期	平成27年度～【実施中】
事業概要	エリア内の歴史的建造物や、まちに眠っている遊休不動産（空き家・空き店舗）を活用し、エリア価値の向上を図る。遊休不動産のみならず、道路や公園という公共空間も含めたトータルマネジメントを通して、個々の空間・不動産の枠を超えたエリア全体での再生を目指す。
事業効果及び進捗状況	中心市街地内の空き店舗調査や中心市街地エリアの「都市解析」を行い、事業を戦略的に実施すべきエリアの見つけ方を学ぶなど、意識

	<p>醸成等に向けた取組を実施したが、本事業による効果は発現していない。</p> <p>今後は、遊休不動産の情報収集や発信策の検討、講座の開催など、民の活力を引き出す環境整備や土台づくりに取り組んでいく。</p> <p>(新規出店者数：直近効果値「0」／目標値「5」件)</p>
--	---

② 創業支援事業（会津若松市、NPO法人、民間事業者等）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	市が民間事業者と連携し、新規創業支援を行うことで、地域の開業率を引き上げるとともに、魅力的な店舗の集積を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>平成 29 年度新規創業者数約 40 件のうち、中心市街地新規出店者数は 6 件だった。（他事業との重複分除く）本計画認定後、中心市街地内で計「16」件が新規出店している。</p> <p>引き続き、総合的な創業支援を続けていくことで、中心市街地における新規出店者数の増加が期待される。</p> <p>(新規出店者数：直近効果値「16」／目標値「5」件)</p>

③ 商業・アミューズメント施設「ロイヤルプラザ」改修整備事業  
（エターナルブライダル株式会社）

事業完了時期	平成 29 年度【未】
事業概要	<p>空きフロアとして有効活用されていない低未利用部分を改修し、集客力の高い飲食店や小売店舗（約 10 件）の再誘致を進め、施設の魅力向上による訴求力を高めるとともに、隣接する神明通り商店街との「2核1モール構想」により、回遊性を向上し、商業集積と中心市街地の魅力向上による交流人口の増加を推進する。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>施設整備に要する事業費の増大や国の補助率変更等により、事業の再検討が必要になった。また、調査事業等の結果から計画をした 10 店舗程度の飲食店等のテナントの誘致を図ったが、テナントを確保することができなかったため、事業実施の判断に至らず、実施に遅れが生じている。</p> <p>一方で、空きフロアに対する問い合わせもあることから、事業の採算性も含め、様々な視点から有効活用に向けて検討をしており、本事業の実現に向け支援を継続していく。</p> <p>本事業の効果として、出店者数の増加を「10 件」、歩行者通行量の増加を「2,660 人/日」と見込んでいるが、現状は、いずれも効果は発現していない。</p> <p>(新規出店者数：直近効果値「0」／目標値「10」件) (歩行者通行量：直近効果値「0」／目標値「+2,660」人・日)</p>

④ 神明通り商店街一体的整備構想事業（神明通り商店街振興組合）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	商店街を一つの大規模商業施設とみため、アーケードの改修をはじめとする一体的整備事業を計画的に進めるほか、市と連携した事業を展開することで商店街利用者の利便性の向上を図り、商業集積と中心市街地の魅力向上を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>平成 29 年 9 月に新たなアーケードの建設工事に着工し、平成 30 年 3 月に工事が完了した。建設工事と同時にソフト事業の企画立案を行い、平成 30 年度は近隣商店街と合同で実施する「健康」をテーマとしたソフト事業の実施が決まり、また、コミュニティ活動拠点整備事業も計画しており、目標指数への貢献が期待される。</p> <p>本事業の効果として、出店者数の増加を「2 件」としているが、平成 29 年度に飲食店の新規出店が 1 件あり、今後も出店が期待される。</p> <p>なお、歩行者通行量の増加を「48 人/日」、コミュニティ施設利用者数の増加を「4,350 人/年」と見込んでいるが、現状は、いずれも効果は発現していない。</p> <p>（新規出店者数：直近効果値「1」／目標値「2」件）          （歩行者通行量：直近効果値「0」／目標値「+48」人・日）          （活動拠点利用者数：直近効果値「0」／目標値「+4,350」人・年）</p>

⑤ 市役所通り商店街「ファサード改修等による通りや路地空間の魅力創出整備事業」（会津若松市役所通り商店街振興組合）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用したテナントミックス事業、店舗ファサード改修事業、コミュニティ施設整備事業、路地裏整備事業、各種イベント等をとおして、回遊性・滞留性の向上、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>平成 29 年度は空き店舗対策事業として、新規出店 5 店舗あり、新たな賑わい創出に寄与した。本計画認定後、商店街内に計 7 件が新規出店している。引き続き、事業が継続されるため、新規出店者数の増加が期待される。</p> <p>なお、平成 27 年度に整備した既存店舗内のコミュニティ施設については、利用者数は当初予定より大幅に下回っている。今後は、PR や利用促進策等を積極的に行い、利用者数や歩行者通行量の増加を図っていく。</p> <p>（新規出店者数：直近効果値「7」／目標値「2」件）</p>

⑥ 空き店舗対策事業（各商店街、まちづくり団体等）

事業完了時期	平成 8 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の空き店舗を活用して、商店街内の業種構成の見直し

	や不足業種などの再配置（テナントミックス）を行う商店街などにその賃料の一部を助成することを通して、通りや商店街の空き店舗を解消することにより、商機能の充実や「来街者の回遊性や集客力」の向上を図る。
事業効果及び進捗状況	官民が連携して中心市街地活性化に取り組んでいることによる効果として、中心市街地内での新規出店者数が「26」件（うち、補助制度利用8件。他補助制度との重複分を除く。）と大きな伸びが発現し、引き続き増加が期待される。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

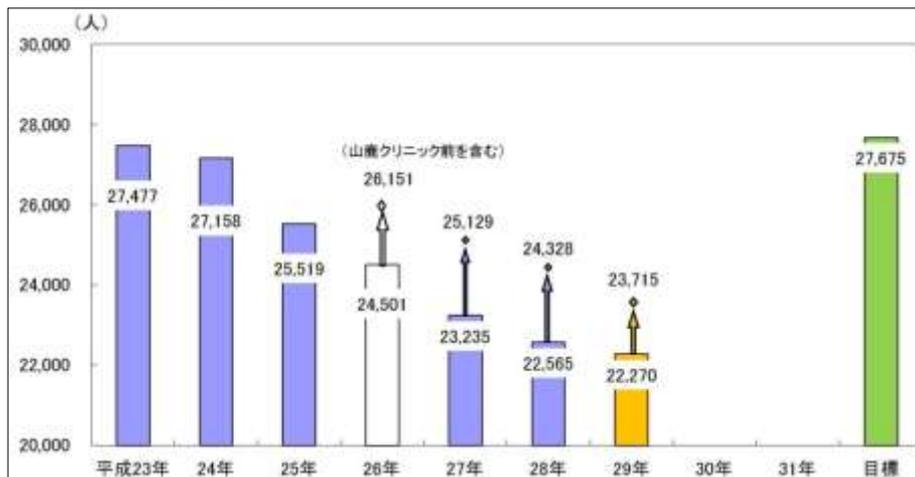
現在、「商業施設改修整備事業」の実施に遅れが生じているものの、「歴史的建造物を活かしたまちなか賑わい拠点づくり事業」等の実施による、更なる新規出店者の増加が見込まれており、「空き店舗対策事業」、「創業支援事業」の更なる推進と積極的な支援により、計画期間内の目標の達成を目指していく。

現在効果が発現していない「会津版家守事業」については、事業実施に向けた課題等の整理を行っている状況であり、専門アドバイザーの活用等による事業実現に向けた支援が今後も必要となる。また、未着手となっている「商業施設改修整備事業」は、事業主を中心に、施設活用に向けた環境整備や入居者交渉等も実施しているが、具体的な改修時期については未定であり、引き続き、事業実現に向けた具体的支援策等の情報提供などが必要となる。

なお、神明通り商店街一体的整備構想事業における出店者の増加については、アーケードの建設工事が終了したことや今後の活性化事業の実施により効果発現が期待される。

### 「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P67～P74 参照

### ●調査結果の推移



年	(人/日)
H26	26,151 (基準年値)
H27	25,129
H28	24,328
H29	23,715
H30	
H31	27,675 (目標値)

※調査方法：中心市街地 15 か所、平日と休日の各 1 日、12 時間連続調査

※調査月：平成 29 年 7 月

※調査主体：会津若松市

※調査対象：歩行者数（自転車含む）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①（再掲）商業・アミューズメント施設「ロイヤルプラザ」改修整備事業  
（エターナルブライダル株式会社）

事業完了時期	平成 29 年度【未】
事業概要	<p>空きフロアとして有効活用されていない低未利用部分を改修し、集客力の高い飲食店や小売店舗（約 10 件）の再誘致を進め、施設の魅力向上による訴求力を高めるとともに、隣接する神明通り商店街との「2核1モール構想」により、回遊性を向上し、商業集積と中心市街地の魅力向上による交流人口の増加を推進する。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>施設整備に要する事業費の増大や国の補助率変更等により、事業の再検討が必要になった。また、調査事業等の結果から計画をした 10 店舗程度の飲食店等のテナントの誘致を図ったが、テナントを確保することができなかったため、事業実施の判断に至らず、実施に遅れが生じている。</p> <p>一方で、空きフロアに対する問い合わせもあることから、事業の採算性も含め、様々な視点から有効活用に向けて検討をしており、本事業の実現に向け支援を継続していく。</p> <p>本事業の効果として、出店者数の増加を「10 件」、歩行者通行量の増加を「2,660 人・日」と見込んでいるが、現状は、いずれも効果は発現していない。</p> <p>（新規出店者数：直近効果値「0」／目標値「10」件） （歩行者通行量：直近効果値「0」／目標値「+2,660」人・日）</p>

② スマートウェルネスシティ事業（会津インターナショナルスイミングスクール）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	<p>ICTを活用して利用者個別の生活習慣、運動量、生体情報等のデータを蓄積し、個別指導に活用するとともに、まちなかを「歩く」ことを通した健康づくり等事業を実施し、参加者の健康増進や歩行者通行量などの増加を図る。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>施設内へのコミュニティスペース整備は遅れており、施設利用者数の増加への効果の発現はないものの、まち歩き等の各種健康づくり事業の実施により、計画した歩行者通行量の増加（+33 人・日）に繋がっている。</p> <p>本事業は継続されるため、参加者の健康増進と歩行者通行量の増加が期待される。</p> <p>（歩行者通行量：直近効果値「33」／目標値「+64」人・日） （活動拠点利用者数：直近効果値「0」／目標値「+5,625」人・年）</p>

③ (再掲) 神明通り商店街一体的整備構想事業 (神明通り商店街振興組合)

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	商店街を一つの大規模商業施設とみため、アーケードの改修をはじめとする一体的整備事業を計画的に進めるほか、市と連携した事業を展開することで商店街利用者の利便性の向上を図り、商業集積と中心市街地の魅力向上を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>平成 29 年 9 月に新たなアーケードの建設工事に着工し、平成 30 年 3 月に工事が完了した。建設工事と同時にソフト事業の企画立案を行い、平成 30 年度は近隣商店街と合同で実施する「健康」をテーマとしたソフト事業の実施が決まり、また、コミュニティ活動拠点整備事業も計画しており、目標指数への貢献が期待される。</p> <p>本事業の効果として、出店者数の増加を「2 件」としているが、平成 29 年度に飲食店の新規出店が 1 件あり、今後も出店が期待される。</p> <p>なお、歩行者通行量の増加を「48 人・日」、コミュニティ施設利用者数の増加を「4,350 人・年」と見込んでいるが、現状は、いずれも効果は発現していない。</p> <p>(新規出店者数：直近効果値「1」／目標値「2」件)  (歩行者通行量：直近効果値「0」／目標値「+48」人・日)  (活動拠点利用者数：直近効果値「0」／目標値「+4,350」人・年)</p>

④ (再掲) 市役所通り商店街「ファサード改修等による通りや路地空間の魅力創出整備事業」(会津若松市役所通り商店街振興組合)

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用したテナントミックス事業、店舗ファサード改修事業、コミュニティ施設整備事業、路地裏整備事業、各種イベント等をとおして、回遊性・滞留性の向上、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>平成 29 年度は空き店舗対策事業として、新規出店 5 店舗あり、新たな賑わい創出に寄与した。本計画認定後、商店街内に計 7 件が新規出店している。引き続き、事業が継続されるため、新規出店者数の増加が期待される。</p> <p>なお、平成 27 年度に整備した既存店舗内のコミュニティ施設については、利用者数は当初予定より大幅に下回っている。今後は、PR や利用促進策等を積極的に行い、利用者数や歩行者通行量の増加を図っていく。</p>

⑤ 高齢者向け住宅建設事業（株式会社ライフエージェント）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	高齢者向け集合住宅とデイサービス施設の建設。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年 9 月から供用を開始し、サービス付高齢者住宅 19 床が満床であるほか、同施設内のデイサービス、リハビリ特化型運動施設の利用者により新たな層の来街が図られており、当初計画した歩行者通行量（+42 人・日）増加に寄与している。 （歩行者通行量：直近効果値「42」／目標値「+42」人・日）

⑥ まちなかコミュニティ機能再生事業

（会津ふれあい通り大和町桂林寺町商店会、本町商店街振興会など）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	地域の活動拠点として多くの人が集い、ふれあい、活動する場を提供し、賑わい創出を図る。
事業効果及び進捗状況	会津ふれあい通り大和町桂林寺町商店会（平成 26 年度）、本町通り商店街振興会（平成 27 年度）にコミュニティ施設が整備され、供用が開始された。 両施設を合わせると、当初計画した利用人数を上回る結果となっており、市民活動の拠点として、新たな賑わい創出に寄与している。 引き続き、施設の P R ・利用促進策等により、市民活動量の増大と歩行者通行量の増加が期待される。

●目標達成の見通し及び今後の対策

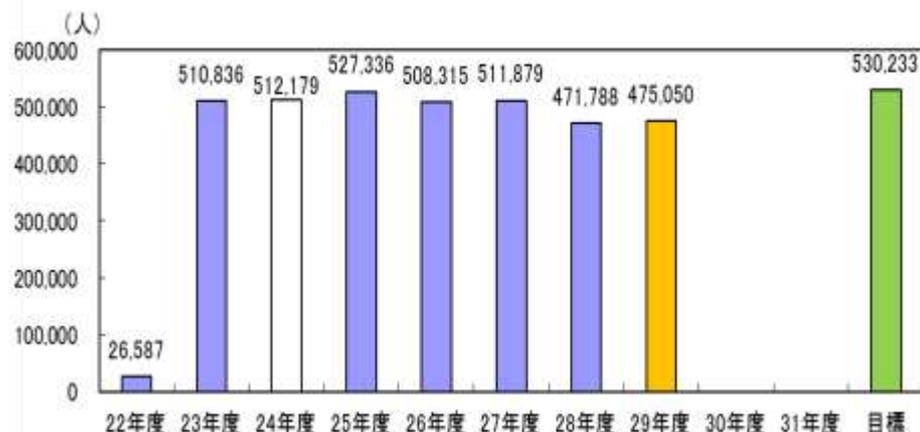
「商業施設改修整備事業」（+2,660 人・日）が未着手となっていること、一部事業の中に位置付けているコミュニティ施設の整備（+133 人・日）の遅れなど、効果が発現していない事業もあるほか、買物環境の変化や人口の減少などにより、歩行者通行量の減少が続き、目標達成が難しい状況にある。

なお、未着手となっている商業施設改修整備事業については、事業主を中心に、施設活用に向けた環境整備や入居者交渉等も随時実施しているが、具体的な改修時期については未定であり、引き続き、事業実現に向けた具体的支援策等の情報提供などが必要となる。

今後も、まちを歩くことを通した健康づくり事業、高齢者向け住宅建設事業、コミュニティ施設整備事業等の実施による「人の流れ」を作り出す取組の継続や、店舗ファサードの改修、板塀、のれんによる各通りをつなげる景観づくり事業、ライトアップ事業、各種イベント、まちゼミ等による「まちなかと個店の魅力向上」を図る取組も継続することで、まちなかへの誘導を促進するとともに、各事業のより効果的な P R 等を行っていく。さらには、計画期間の 3 年目を終了し、推計値以上の歩行者減少が続いていることから、目標達成に向けた新たな事業の掘りおこしなどの検討も行っていく。

「活動拠点施設利用者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P75～P78 参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H24	512,179 (基準年値)
H27	511,879
H28	471,788
H29	475,050
H30	
H31	530,233 (目標値)

※調査方法：毎年度3月末日時点での数値を関係機関等に照会

※調査月：平成30年4月

※調査主体：会津若松市

※調査対象：既存の主要な活動拠点施設及び新たに整備された施設の利用者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①（再掲）スマートウェルネスシティ事業

（会津インターナショナルスイミングスクール）

事業完了時期	平成26年度～【実施中】
事業概要	ICTを活用して利用者個別の生活習慣、運動量、生体情報等のデータを蓄積し、個別指導に活用するとともに、まちなかを「歩く」ことを通した健康づくり等事業を実施し、参加者の健康増進や歩行者通行量などの増加を図る。
事業効果及び進捗状況	施設内へのコミュニティスペース整備は遅れており、施設利用者数の増加への効果の発現はないものの、まち歩き等の各種健康づくり事業の実施により、計画した歩行者通行量の増加（+33人・日）に繋がっている。 本事業は継続されるため、参加者の健康増進と歩行者通行量の増加が期待される。 (歩行者通行量：直近効果値「33」人／目標値「+64」人) (活動拠点利用者数：直近効果値「0」／目標値「+5,625」人・年)

②（再掲）神明通り商店街一体的整備構想事業（神明通り商店街振興組合）

事業完了時期	平成26年度～【実施中】
事業概要	商店街を一つの大規模商業施設とみため、アーケードの改修をはじめとする一体的整備事業を計画的に進めるほか、市と連携した事業を

	展開することで商店街利用者の利便性の向上を図り、商業集積と中心市街地の魅力向上を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>平成 29 年 9 月に新たなアーケードの建設工事に着工し、平成 30 年 3 月に工事が完了した。建設工事と同時にソフト事業の企画立案を行い、平成 30 年度は近隣商店街と合同で実施する「健康」をテーマとしたソフト事業の実施が決まり、また、コミュニティ活動拠点整備事業も計画しており、目標指数への貢献が期待される。</p> <p>本事業の効果として、出店者数の増加を「2 件」としているが、平成 29 年度に飲食店の新規出店が 1 件あり、今後も出店が期待される。</p> <p>なお、歩行者通行量の増加を「48 人・日」、コミュニティ施設利用者数の増加を「4,350 人・年」と見込んでいるが、現状は、いずれも効果は発現していない。</p> <p>(新規出店者数：直近効果値「1」／目標値「2」件)  (歩行者通行量：直近効果値「0」／目標値「+48」人・日)  (活動拠点利用者数：直近効果値「0」／目標値「+4,350」人・年)</p>

③ (再掲) 市役所通り商店街「ファサード改修等による通りや路地空間の魅力創出整備事業」(会津若松市役所通り商店街振興組合)

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用したテナントミックス事業、店舗ファサード改修事業、コミュニティ施設整備事業、路地裏整備事業、各種イベント等をとおして、回遊性・滞留性の向上、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>平成 29 年度は空き店舗対策事業として、新規出店 5 店舗あり、新たな賑わい創出に寄与した。本計画認定後、商店街内に計 7 件が新規出店している。引き続き、事業が継続されるため、新規出店者数の増加が期待される。</p> <p>なお、平成 27 年度に整備した既存店舗内のコミュニティ施設については、利用者数は当初予定より大幅に下回っている。今後は、PR や利用促進策等を積極的に行い、利用者数や歩行者通行量の増加を図っていく。</p>

④ (再掲) まちなかコミュニティ機能再生事業  
(会津ふれあい通り大和町桂林寺町商店会、本町商店街振興会など)

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	地域の活動拠点として多くの人が集い、ふれあい、活動する場を提供し、賑わい創出を図る。
事業効果及び進捗状況	会津ふれあい通り大和町桂林寺町商店会(平成 26 年度)、本町通り商店街振興会(平成 27 年度)にコミュニティ施設が整備され、供用が開始された。

両施設を合わせると、当初計画した利用人数を上回るようになっており、市民活動の拠点として、新たな賑わい創出に寄与している。  
引き続き、施設のPR・利用促進策等により、市民活動量の増大と歩行者通行量の増加が期待される。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

これまで、中心市街地内に4件のコミュニティ施設が整備され、市民の活動に寄与する取組が促進されているものの、既存公共施設の利用者が推計値を大きく下回る結果となっている。

既存施設の利用者の減少は、施設の利用が一定程度落ち着いてきたことなどが原因として考えられる。今後は、既存施設利用者の中で、利用者の増加が見込める年代等に対して積極的な利用促進事業等を実施していくほか、引き続き、未着手となっている他の商店街等による新たな施設整備について支援するとともに、活動拠点施設のPR・利用促進等を積極的に行うなど、利用者増加に向けた取組などを支援する。

#### 【参考】主要事業における現状値と目標値の比較

(単位：人・年)

主要事業	現状値	目標値
既存施設利用者数	469,438	512,179
スマートウェルネス事業	0	5,625
神明通り一体的整備構想事業	0	4,350
まちなかコミュニティ事業等	5,612	8,079
合計	475,068	530,233